



ドクター板東の メディカルリサーチ Vol. 111

～人命を 南アジアで 救う医師～

<http://pianomed-mr.ip/>

筆者はしばしば世界家庭医学会（略称WONCA）の国際会議に参加している。このたび南アジア地域の集会が、通常訪れる機会がないバングラデシュで開催され、発表を兼ねて出張する機会があつた。

日本とは、社会・文化・医療的な異なる点があり、今回は簡単に触れてみたいと思う。

バングラデシゴ

地図上、誰もがよく知る
インドの東側に、周知度が
少ないバングラデシュが位
置する（図1）。ベンガル
湾に面し、ベンガル人が98%
公用語はベンガル語、イス
ラム教徒が90%に達する。
人口は1・45億人（20
08）と世界第7位である
のが、注目されよう。

国の概説は長くなるため
重要な側面をいくつか要約
させて頂きたい。

①環境面では、平らなヒマラヤであり、雪解け水や洪水が問題となる。様々な歴史の後1971年に独立した新しい国だ。



图 1



2

南アジア会議

力国でも際立つてゐる。

④同国が世界に誇る発明がある。脱水を治療し救命する経口補水塩(ORS)で、徳島発のポカリスエットと類似する。他方はノーベル平和賞を受賞したグラミーン銀行のマイクロ・クレジットである。各村で女性5名がグループを創り、労働・収入・生活を守る活動が高く評価された。



义 3

ダッカ(Dhaka)にある。ダッカ大学は学生約3万人、職員1500人、本WONCA(Word Organization of Family Doctors)会議で多数のボランティアが支援ぐだもつた。

開会式では、世界 WONCA

会長である Prof. Michael Kidd 氏が中央に着席。岡
2 で向かって右には、私の
頻回のメールに対応下さい
た実行委員長である Prof.
Kanu Bala 氏が坐り、同国
の家庭医学の教授として、

国際会議の意義を発信されていた。

会長講演では、今までに

family medicine の発展に

貢献されたアジアの医師と

その活動を要約させていた

(図3)。いつも感じている

のだが、Kidd教授はいつ

も会長として、状況に応じ

た優れたご講演を担当され、

いつも敬服している。

ほかに、医学教育のレク

チャーもあり、興味深いも

のがみられた。医師たるもの

が守るべき項目として、



Imagine someone
important is watching me

Courtesy & respect
Proceed with permission
Explain what you're doing

を挙げていた(図4)。なるほど、ユニークな講演であり、いろいろな場面にも応用できるだろう。

今回の学会スケジュールでは、相互に話しあえる機会が多くた。国を超えて、一緒に交流を深め、意義深いものとなつた(図5)。

その一員は、プログラムの工夫であろう。講演やや各種の発表の間に、ティーブレイクなど歓談できる機会を得ることができた。

特に、カルチャーナイト



演(図7)。欧米や日本ではメタボが大きな問題だが、南アジアではまだそこまで達していないと思っていた。

しかし、実際は違つていた。以前の医学が大きく変わつた現在では、各国からの反響は予想以上に大きく、いろいろな質問や依頼が相次いだ。

特にネパールの厚生省のRai局長から、まさに現代医学を総合的に検討してい

る(図8)。

今回の南アジア会議で感じたことが。現時点では、各国でメタボは少ないが、行政官や医師は、数十年先を考慮中だ。家庭医は、患者・家族という縦軸、地域・国という横軸、将来という時間軸、これら三次元で議論し、戦略を進めていかねばならない。

(板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト)



図5

では、同国の音楽や歌唱、ダンスが紹介され、拍手喝采に(図6)。興味深い舞踏を十分に楽しませて頂いた。

パーティの最後には、私も阿波踊りで乱舞に参加し、国際交流に貢献できたかも知れない。

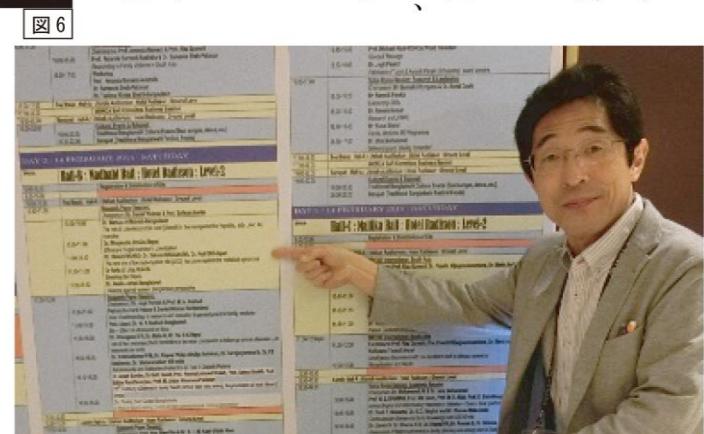


図7



図8